

平成 27 年度 第 3 回園芸研究所・第 5 回農業研究所 主要課題現地検討会（干しいも）の開催

8月5日、ワークプラザ勝田において、干しいもに関する主要現地検討会を開催しました。当日は、生産者・関連企業 144 名、ひたちなか・東海・那珂ほしいも協議会 11 名、普及指導員・行政等関係機関 14 名、農業総合センター15名の計 184 名の出席があり、高品質干しいも生産における注意点、原料いもの栽培および品種や加工法における特性について意見交換を行いました。出席者からは多くの意見が寄せられ、今後の干しいもに関わる試験研究推進と普及における課題解決に向けた有意義な検討会となりました。

なお、本検討会はひたちなか・東海・那珂ほしいも協議会との共催としました。

【試験研究の取り組み・進捗状況の紹介】

高品質干しいもの品質特性と加工に関わる注意点、干しいも主力品種「タムユタカ」農研優良系統の特性、加工における品種特性や加工特性を紹介しました。

【総合討論】

住友ベークライト榎大山氏から、鮮度保持と結露防止に効果のある包装資材の情報提供と、(一財)いも類振興会の狩谷理事長より、「干しいも辞典」作成と干しいもに関する消費者ニーズや原料いもの栽培と加工に関する意見をうかがうことができました。また、生産者や関係企業の方と干しいも生産における知見や、課題等多くの意見を交換することができました。

【アンケート】

今回の現地検討会のテーマに対するアンケート結果では、干しいもの高品質化と「べにはるか」、「ほしこがね」の糖化特性に関して最も高い関心が寄せられました。干しいも新品種「べにはるか」は今後も生産量の増加が予想されるところであり、栽培と加工の両面から高品質干しいも生産技術を確立させるべく研究していく計画です。今後も園芸研究所では、関係機関と連携を図り、産地並び生産者の期待に応えられる課題解決と開発技術の普及を目指します。



主要研究課題の課題発表



大変多くの方に参加して頂きました